

英語論文作成入門

2 単位 (選択) 1 年 (後期)

Introduction to How to Write Up Scientific Manuscript in English

市原明・名誉教授, 富田修平・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

梶龍児・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 福井清・教授 / 疾患酵素学研究センター, 中屋豊・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 岡崎拓・教授 / 疾患ゲノム研究センター

長篠博文・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 福井裕行・教授 / 医療生命薬学専攻, カルビブカサ・助教 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【授業目的】 21 世紀に医学, 歯学, 薬学, 栄養学, 保健学の各分野で活躍する人材は英語が堪能であることが要求される。本授業ではこれらの領域で用いられる独特の英語表現法に関わる基本的知識を修得することを目的とする。

【授業概要】 研究成果を国際的な学術雑誌に発表したり, 海外の学会やシンポジウムで発表や講演をしたりすることは, 研究者養成を目的とする大学院教育において必須の履修目標である。そこで, 本授業では医学英語論文, 用紙の作成方法について系統的な講義をビデオ並びにマルチメディア教材等を積極的に活用しながら行う。更に, 医科学用英語の聴き取り及び英語による討論の訓練を行い, 発表技術の向上を目指す。

【授業形式】 [形態]

【キーワード】 [キーワード]

【先行科目】 [先行科目]

【関連科目】 [関連科目]

【履修上の注意】 1) 授業は後期のみを開講される。時間帯は原則的に火曜日の午後であるが, 講師の事情等により変更されることがある。2) 講義の一部は e-learning 化されているので, e-learning 学習も出席として取り扱う。3) 20 分以上の遅刻は出席と見なさない。

【到達目標】 [目標]

【授業計画】

1. 生物医学雑誌投稿に要求される条件 (I) (担当者: 福井 清)
2. 生物医学雑誌投稿に要求される条件について (II) (担当者: 福井 清)
3. 研究, 論文, 学会発表の進め方 (I) (担当者: 市原 明)
4. 研究, 論文, 学会発表の進め方 (II) (担当者: 市原 明)
5. 論文投稿申込書, 経歴書, 研究計画書, 履歴書などの書き方 (I) (担当者: 長篠 博文)
6. 論文投稿申込書, 経歴書, 研究計画書, 履歴書などの書き方 (II) (担当者: 長篠 博文)
7. 学会口演要旨作成上の留意点について実例をまじえて (担当者: 富田 修平)
8. 論文作成に役立つコンピュータの利用法—実例を示した結果, 考察の書き方— (担当者: 中屋 豊)
9. 英語による PowerPoint presentation についての要点 (担当者: 梶 龍児)
10. 英語論文の特性と日本語論文との比較 (担当者: 林 良夫)

11. 口頭による英語発表と短報の書き方に関する基本を講義する I (担当者: 岡崎 拓)

12. 口頭による英語発表と短報の書き方に関する基本を講義する I (担当者: 岡崎 拓)

13. 研究の区切りとしての論文作成 I (担当者: 福井裕行)

14. II

【成績評価】 講義への出席, 随時の試験, 受講態度を総合して行う。2/3 以上の出席がなければ不合格とする。再試験はない。

【教科書】 なし

【参考書】 [参考資料]

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=222229>

【連絡先】 [連絡先]

Introduction to How to Write Up Scientific Manuscript in English

2 units (selection) 1st-year(2nd semester)

Akira Ichihara · 名誉教授, Shuhei Tomita · PROFESSOR / INSTITUTE OF HEALTH BIOSCIENCES, Ryuji Kaji · PROFESSOR / INSTITUTE OF HEALTH BIOSCIENCES, Kiyoshi Fukui · PROFESSOR / INSTITUTE FOR ENZYME RESEARCH

Yutaka Nakaya · PROFESSOR / INSTITUTE OF HEALTH BIOSCIENCES, Taku Okazaki · PROFESSOR / INSTITUTE FOR GENOME RESEARCH, Hirofumi Nagashino · PROFESSOR / INSTITUTE OF HEALTH BIOSCIENCES

Hiroyuki Fukui · PROFESSOR / PHARMACEUTICAL LIFE SCIENCES, Bukasa Kalubi · ASSISTANT PROFESSOR / INSTITUTE OF HEALTH BIOSCIENCES

Target) 21世紀に医学, 歯学, 薬学, 栄養学, 保健学の各分野で活躍する人材は英語が堪能であることが要求される。本授業ではこれらの領域で用いられる独特の英語表現法に関わる基本的知識を修得することを目的とする。

Outline) 研究成果を国際的な学術雑誌に発表したり, 海外の学会やシンポジウムで発表や講演をしたりすることは, 研究者養成を目的とする大学院教育において必須の履修目標である。そこで, 本授業では医学英語論文, 用紙の作成方法について系統的な講義をビデオ並びにマルチメディア教材等を積極的に活用しながら行う。更に, 医科学用英語の聴き取り及び英語による討論の訓練を行い, 発表技術の向上を目指す。

Style) [形態]

Keyword) [キーワード]

Fundamental Lecture) [先行科目]

Relational Lecture) [関連科目]

Notice) 1) 授業は後期のみが開講される。時間帯は原則的に火曜日の午後であるが, 講師の事情等により変更されることがある。2) 講義の一部は e-learning 化されているので, e-learning 学習も出席として取り扱う。3) 20分以上の遅刻は出席と見なさない。

Goal) [目標]

Schedule)

1. 生物医学雑誌投稿に要求される条件 (I) (担当者: Fukui Kiyoshi)
2. 生物医学雑誌投稿に要求される条件について (II) (担当者: Fukui Kiyoshi)
3. 研究, 論文, 学会発表の進め方 (I) (担当者: 市原 明)
4. 研究, 論文, 学会発表の進め方 (II) (担当者: Ichihara Akira)
5. 論文投稿申込書, 経歴書, 研究計画書, 履歴書などの書き方 (I) (担当者: 長篠 博文)
6. 論文投稿申込書, 経歴書, 研究計画書, 履歴書などの書き方 (II) (担当者: 長篠 博文)
7. 学会口演要旨作成上の留意点について実例をまじえて (担当者: 富田 修平)
8. 論文作成に役立つコンピュータの利用法—実例を示した結果, 考察の書き方— (担当者: 中屋 豊)
9. 英語による PowerPoint presentation についての要点 (担当者: 梶 龍児)
10. 英語論文の特性と日本語論文との比較 (担当者: 林 良夫)

11. 口頭による英語発表と短報の書き方に関する基本を講義する I (担当者: 岡崎 拓)

12. 口頭による英語発表と短報の書き方に関する基本を講義する I (担当者: 岡崎 拓)

13. 研究の区切りとしての論文作成 I (担当者: 福井裕行)

14. II

Evaluation Criteria) 講義への出席, 随時の試験, 受講態度を総合して行う。2/3 以上の出席がなければ不合格とする。再試験はない。

Textbook) なし

Reference) [参考資料]

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=222229>

Contact) [連絡先]